夕刊
四月二十八日　日發行
定價（月極）金六拾錢　郵稅金拾五錢
廣告料金（一段）五十錢　（二段）一圓
（三段）一圓五拾錢　（四段）二圓
（五段）二圓五拾錢　（六段）三圓
（七段）三圓五拾錢　（八段）四圓
（日曜祭日發行）
東京電話（一〇六五五八）番
發行所　磐城新聞社
磐城市紺屋町六番地
電話五六四番
（ダイヤルは番号）

平局俳黎會　四月句會互選句集

『竹の秋』

○竹の秋枯葉しげきに風生るゝ　碧笑
○透ける陽の黄をはじくなり竹の秋　同
○竹の秋假寢をとれば薄陽さす　陽光
○夕陽に風入り渡る竹の秋　三因
○禁伐の立札古し竹の秋　白砂
○音わびし異郷の海や竹の秋　麗月
○暖たかき土堤の風かや竹の秋　同
○經藏の壁のくづれや竹の秋　松露
○布團干す賤ヶ伏屋や竹の秋　猿子
○ひつそりと葉づれも輕し竹の秋　無聲
○洩陽ゆるゝ土ぬくめきぬ竹の秋　水明

『春の風』

○風光る芽草斜面に陽の匂ふ　碧笑
○雜木々の梢芽ぐみそめ風光る　同
○麥の青、陽にかぎろいて風光る　水明
○風光る丘の芽柳搖れ止まず　同
○親し病棲を樣に風光る　華岳
○日をあびて廻る水車や風光る　春風
○雛雞の庭に散らけて風光る　含雪

『村童の遊ぶをみて』

○風光る丘占領の部隊長　同
○車井の眞新し綱や風光る　一笑
○枯れる岸の蘆むらも風光る　青風

『春なづむ宮居明るし竹の秋　同

『席題風光る』互選句集

○竹の秋枯葉しげきに風生るゝ
○透ける陽の黄をはじくなり竹の秋
○竹の秋假寢をとれば薄陽さす
○夕陽に風入り渡る竹の秋
○禁伐の立札古し竹の秋
○音わびし異郷の海や竹の秋
○暖たかき土堤の風かや竹の秋
○經藏の壁のくづれや竹の秋
○布團干す賤ヶ伏屋や竹の秋
○ひつそりと葉づれも輕し竹の秋
○洩陽ゆるゝ土ぬくめきぬ竹の秋

磐城の獅子舞研究（十）

山口彌一郎

6、師匠の傳承及び獅子舞の練習

獅子舞の師匠は飯野村高久の如く特に定めぬ場合もあるが、飯野村上荒川、夏井村菅波、平市下平窪、玉川村島等の如く、しゝ舞を演じた上手な者が順次師匠になる場合が多い。内郷村練習するが、率納は祭日の白水もさうであるが、演技發七月七日でその前月後六の間遠つた場合は念佛の人月丑の日に一人糯米一升宛がなほした。又郷高坂の如く長男で村の相續人に限り六月正月をやる。石城郡のれてあるのがあるが、他村に於ける師匠順送りの場合もその意味が強い。棒の師匠も多くは獅子舞の師匠がそめ」である。練習は毎日ね、特に泉村滝尻の如く日沒まで行ふ。練習完了を奥陽を授けて師匠を讓る場合もある。師に對する禮は厚く、特に練習期間は全く師匠の示教に從ふ。

練習期間は十日以上に亘るものもある。場所は玉川村島にては金蔵院、飯野村砂屋戸にては天即寺、平市下平窪にては安養寺、同上平窪にてはすがまの觀音寺の如く奉納か神社であるのに寺院で練習するものが多く、夏井村菅波の大國魂神社境内の如く神殿での練習に稀である。玉川村住吉にては世話人宅、飯野村下荒川、同中山、平市中平窪等にては廻り宿、高久村八幅にては青年團長宅を留しが稀には草野村北神谷の如く行屋で行ふ場合もあつた。然し世話人や若衆頭の宅、或は順次廻り宿や練習したのが多かつた樣である。

内郷村白水にてはしゝ頭を保管せる願成寺境内にて練習するが、率納は祭日の六月正月をやる。石城郡の一部にては特に著名な休業日をつくる場合正月樣と言もその意味が強い。棒の師匠も多くは獅子舞の師匠がそめ」である。練習は毎日日沒まで行ふ。練習完了を「よつそろひ」と言ふ。若者仲間のみで行ふが、君し不出來の場合は夜まで練習する。祭禮の前日の盂七月六日の夜が「笠ぞろへ」である。然しこゝでは近年笠ぞろへを行はぬ。内郷村高坂にては祭日より二十日前位に「初げいこ」を行ふ。

聞鈴木榮翁養病

珠雲　小野藪人

（其ノ二）

平昔悠々生竹莊
即今病伴藥爐長
我祈神諸驅痾蹇
百歳祇當保壽康

恩讐無道

（87）

久我莊多郎
香川三十代藝

地の卷

かげらふ（五）

『今日は……』

と、ニコ〳〵しながら惣介は、ガラス戸を押してはいつた。

巡邏の途、久し振りにこの紳士然たる客が、あんなにまで芽江を戀しがらせ、また自分も、結終心にかけてた自分も、結終心にかけてた。

笑じてゐる御門專藏の、化身であるとは氣が付く由もない。むろん、女の方は、惣介の知らぬお樂だ。

神ならぬ身と云へ、なんといふ、皮肉であらうか。

けれど、專藏の方では、そのが惣介であると知つてゐる。知つてゐるか專藏のお目にかゝるのでなかつた。

波に揉まれも一枚の木の葉時。

つゐに、胸は動搖　早等

『暫くお待ちを――』

と會釋して、いそいで奥へ駆け込んで行つた。

惣介は帽子を脱いで、汗ばんだ額を拭ひながら、自分に背を向けてゐる客の男を、チラと見たが、この紳士然たる客が、あんなにまで芽江を戀しがらせ、また自分も、結終心にかけてた自分も、笑じてゐる御門專藏の、化身であるとは氣が付く由もない。むろん、女の方は、惣介の知らぬお樂だ。

神ならぬ身と云へ、なんといふ、皮肉であらうか。

けれど、專藏の方では、そのが惣介であると知つてゐる。知つてゐるか專藏のお目にかゝるのでなかつた。

波に揉まれも一枚の木の葉時。

つゐに、胸は動搖　早等

『やあ、深見君、よく來た』

と、依田賢三郎の例の寸分隙のない洋服すがたが現はれたのでいまの疑問は、こゝで中斷されてしまつた。

知らねばこそ、である。

から簡單に、いまの紳士を忘れることが出來るのだ。知つてゐたら、どうして、落付いてゐられるものではない。

それにしても、こゝにやつとつながりが出來さうに見た惣介と專藏なのに、このまゝ別れてしまつたらこんどまた、いつ會へることか？

廣いやうで案外狹い世間といふ言葉があるが、それの裏腹のものは、狹いやうに見ゐて案外廣い世間、といふことになる。その廣い世間で、たつた一人の男を見付け出さうといふのは、容易なことではないのではないか。

を揺いて、ちつとそこに立つてゐられないほどの苦しい氣持である。

だが、へんにうろたへては却て怪しまれると思つたから、薄氷を踏む心で、さわぎ立つ心を抑へるのに努力した。顏色にも出すまいと心をひきしめた。

そこへ、さつきの店員が奥から戻つて來たから、

『これを貰つとこう』

夢中で一箇の時計を指すと、金を拂つて早々に店を出た。

ちようど、ワドソン商會の表へ命じて置いた馬車が着たところだから、虎口をのがれる想ひで、專藏はそれに乘つた。

その樣子が、ちよつと惣介の心を惹いた。怪しいといはないまでも、何となーいまの紳士の脊に暗い影があつたやうである。邏卒と職掌柄で、いつか人を見る目が遙つて來てゐるの

吸入用酸素
純度99%
衡量器　モノサシ　マス　ハカリ
度量器　体温器　寒暖計
秤ノ取締　垂糸・絲　繕致シマス・
開内藥局
電話四〇番

吉田眼科醫院
醫學士　吉田久雄
平市紺屋町　電話六八番

故障の起らぬ
原口のラヂオ
擧つて國防…揃つてラヂオ
ラヂオは是非――
專門店……へ
原口無線電機株式會社代理店
古山電氣商會
平市二丁目（警察署通り）
電話（呼出）166

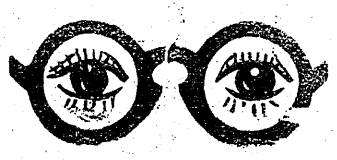
ミシン特賣
世界一の優秀
シンガーミシン
獨逸製新型
ユニオンミシン
國產代表
コントロールミシン
國產日本一
ニツポンミシン
平市大田町（シンガー）
石川ミシン商會
卸部
（販賣店募集）（販賣員採用）

第一線の
慰問品ニハ
見不知羊羹と潮の華
平市五丁目
泉屋菓子店
電話六六八

おでん、やき鳥
小鳥燒も初めました。
お酒のあとにおけさめし
おでん茶めし酒の家
味郷
平市三田小路（三丁目裏）

平土産
米屋の
きんとん三色
最中
平市驛前通り
最中專門店
米屋

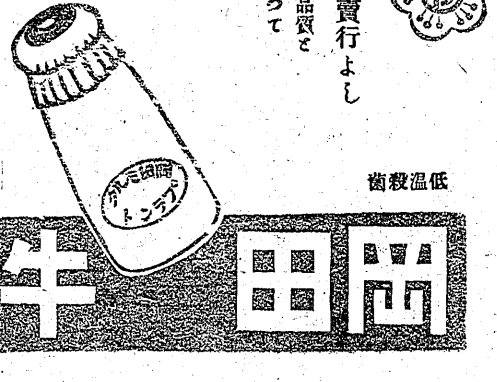
品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平市・九品寺前

メガネ專門の店

メガネは絶對信用ある書店に
先づ御相談下さら……
平市本町二丁目　玉屋

ダイヤ高價買入
平市一丁目三四　澤井

洋服毛織物の御手入は
今が最も好季節

純ドライクリーニング、西洋洗濯
スチームプレス、電氣蒸氣仕上
ローラ仕上　機械應用
若し他店御仕事で御氣に召さぬ節は
是非一度御試驗を!!!
◎優秀なる技術本位の
平市田町
白榮舍ランドリー
絶對他店の追從を許さぬ洗濯機械設備
平市第一

斷然一賣行よし
價用と品質と共に備つて

平市鎌田町
電話五一
低溫殺菌
岡田牛乳

耳鼻咽喉科專門
レントゲン科
高柳醫院
醫學博士　高柳博明
平驛前　電三三六

耳鼻咽喉科專門
平市南町一六番地
大和田醫院
（入院隨意病室完備）
電一七〇番

當局の許可無しに 勤め先の變更ならぬ

平職業紹介所から 雇人制限令趣旨傳達

去る二十日から實施された雇人制限令は銃後産業の擴充保護上、從來散々雇主を泣かせた從業員の引き抜きが殆ど根本から矯正され、他の有利な條件に誘惑されて永年の主從關係を弊履の如く顧みず、數かずして職場を轉々する如き棒に職場を去られる樣な事は無くなつた。因に該當者にして所定の手續きを經ずして職場を轉々する如き產業擴充時代の叛逆者に對しては總動員法の定むる處により一年以下の懲役千圓以下の罰金を科する事になつてゐる

治會館に炭礦關係者の會同を求め夫々指示する處あつた。平職業紹介所の右以外の方面に對しては來月一日紹介所構上に各代表を招集趣旨の徹底に努める事となつた。

その足で佐藤清治方に侵入台所にあつた出刃庖丁で清治夫妻を脅かし現金二圓七十錢を强奪逃走、更に平市內で銀側時計一個(二十圓)川部村飛田清方より革靴一足を物取したこと自白、二十八日書類と共に身柄を送局された

荒井一等兵戰傷

錦村江栗出身山本部隊荒井澄一等兵は先程金鷄山附近の戰鬪で名譽の戰傷を負つた旨二十六日實家に通知あつた、荒井一等兵は中支戰線で赫々たる武勳をたてゝゐた名射手、實家は父一二さん(四八)母たけさん(四一)の外弟妹四人

植田協和會旗調製

協和會植田支部では會員七十名で來月上旬樹立式擧行

に擧げられた覆面强盜犯人鈴木巳六(三三)は去る二十二日夜大野村警防團機械置場からポンプのシートを物取その足で佐藤清治方に侵入台所にあつた出刃庖丁で清治夫妻を脅かし現金二圓七十錢を强奪逃走、更に平市內で銀側時計一個(二十圓)川部村飛田清方より革靴一足

雄魂に輝く恩賞

漢口散華の地方關係者

恩賞に蘇る漢口攻略戰の散華諸靈五千餘名中地方關係次の如くである

(海軍)

功六旭七　二等水兵　泉　佐藤勝直

(陸軍)

功六旭七　歩軍　好間　金成　重安

功七旭八　歩伍　大野　佐藤　高一

歩上　內郷　如藤　富治

歩上　小名浜星野　正男

同　植田　古和田　正

歩伍　草野　坂本　力房

同　飯野　鈴木　松男

砲伍　江名　比佐　政吉

歩上　上小川　草野　英

歩伍　泉　矢部光一郎

歩上　湯本　荒川　正海

特上　大野　會田　榮

輜上　上遠野　姪田　浩

同　勿來　大友　定一

功七旭七

歩伍　江名　佐藤　寅雄

同　川前　根本　貫

同　小名濱　吉田　一郎

同　赤井　鎌倉　晰吉

同　大浦　松崎　梅吉

瑞五　憲少尉　泉　村越　清一

泉村養雞業强化

泉村は養鷄熱の盛んな村として知られ、現在全村の養鷄數は三千羽を突破、鷄卵も年產數千貫に卿してゐるが鷄卵販賣並に飼育管理は統一されていないので村長江尻博孝氏等が發起となつてこれを統制、銃後における養鷄報國に邁進、養鷄家を打つて一丸としか養鷄組合を組織する事になり目下準備中今後は飼育鷄を一萬五千羽として鷄卵及び雛の共同販賣、又孵化場も新設して他縣よりの購入を全廢雛は縣內外へ販賣する方針である

覆面强盜

餘罪

平でも一と稼ぎかり居る事を承りまして

燒石に水の程度が

平局の電話申請締切る

六十九口の多數を受理して

稀有の電話飢饉に果して幾口の新架設を見るか刮目されてゐる平局の本年度架設電話申請は愈よ今二十八日を以て締め切りとなつた。去る十日以來の受付け開始以來の申請數は、軍需關係方面に限るとの極めて狹い範圍なのに拘らず、今朝現在で六十九口の多數に上つてゐるが、中には所定の資格條件を具備せぬものも相當あるらしく、本年と同樣事情の下に行はれた昨年度の實績に徴し詮衡の結果人の羨む幸運を抽き當てるのは恐らく數口を出でまいと觀られてゐる。尙は架設工事は來月頃行はれ六月頃の杭木用丸太で中島の顏面憤慨の餘も長さ二尺五寸餘寺內に專務所を置く佛敎同志會では去る十五、十八の兩日皇國感謝銃後々援報國軍人見舞、出征軍人遺家族托鉢での淨財五十二圓七十八錢を戰歿軍人弔慰、傷痍

坑內で傷害

內郷村磐城炭礦運搬夫某(九)は去負傷して自下同鑛附屬病院で手當中

托鉢獻金

市內九品

電話線盜まる(夏井地內)

夏井村地內平——四倉間遞信省電話線約二百米(電柱二本間)が去る十八日夜何者かに切斷されたのを直に發見平署に屆け出た、銅線飢饉の折柄だけに同署で嚴視し犯人搜査の結果一兩日前から容疑者一名を引致追究中

躍動の氣滿ちて 若葉のすがしさ

忙しくなる地方農村

五月月暦

桑さくらが晩春の陽射しに映ゆて生氣に滿ちた青葉の世界は來る。爽かな緑目に沁みて、肌に心地よい素袷に朝風の感觸も輕い

『若葉五月』は歡樂後の緊張をたゝゐてくりひろげられる

種蒔き苗代の手入れ。八十八夜(三日)前後を轉機として農家は漸く繁忙季に入る

暦ではもう六日が『立夏』菜の花の色濃い彼方に漂ふ初つ夏の氣配、金魚賣りの聲が街から街へすきとほる

『菖蒲湯にひたつて、外に出れば日本晴の蒼空には吹き流しの緋のぼりから〳〵鳴る矢車も快い』端午の節句氣分は舊暦の地方としてまだ二た月近い間はあるが新暦による町の稀には時局柄例年以上の祝賀氣分を見せやう。日曜四回、碧空の下颯爽たるハイキング等もよい

△一日　平職業紹介所で管內關係者へ雇人制限令說明

△二日　けふから兒童愛護週間。人的資源涵養

△四日　青沼市長けふから三日間熊本の孟圖市長會議に出席、仙台鎭山監督平局支所竣功式

△六日　保育事業講習會始まる(平第三校)

△九日　巡査採用試驗(各署で)

△十二日　種蒔

△十四日　體操大會(平商グラウンド)

△十八日　昇天節

△二十二日　小滿

△二十三日　庚申

△二十七日　海軍記念日

◇三十日　東郷元帥命日

△中旬　大相撲夏場所

心で眺めた櫻花

人出は昨年以上だが 爭はれない時局の影

終始天候に惠まれた今年の花は時局柄例年程のはめを外した騷ぎはなかつたものゝお花見部隊の量に於ては確かに例年以上の人出と見られたが、去る十日から二十四日迄の十日間を臨時出張した市役所當局の『お花見惡告書』を見ると(カッコ內昨年)

觀櫻團体二六五組(三二四組)人員五、三〇六名(七、一九六名)貸蓆數二、四一八枚(三、八四三枚)

といよ減少ぶりで、爭はれぬ時局下の心構へを表してゐる。人出の峠は昨年同樣の十六日から十八日迄の三日間で來る十八日迄の三日間は時局下の心構へを表して

今年の花——といよわけだ

お花見報告書

ツ、ヂにも雪洞だけ

見頃は來月十五日前後か

櫻に纏いて松ケ岡にはまたツ、ヂの美觀が描かれる、早咲きはそろ〳〵開き初めたのでこの分なら來月十日前後が見頃だらうと市役所でも棚の手入れや點燈の準備に乘り出してゐる

點燈は櫻と同樣消防の手

使込みは千余圓

日曹の大金泥新妻に 平署の追究鋭し

日曹の大金泥新妻に

偲ばるる故郷の春

菜の花が眞つ盛り

市內二丁目　白土茂平君(通信)

時下寒暖の謝に堪へません。祖國に上候御貴家御一陸以來頗る頑健にて皇國同樣には益々御健祥の事と確信仕り候。扨て御推察申上げます。

不肖が應召出征中は拙宅御配慮に預り誠に有難く厚く御禮申上げます。

當地も全く春らしい氣候となり、附近の部落の杜柳の若葉が靑々と伸び又麥畑に精勵致して居ります。

他事乍ら御放念下さい。

陸以來頗る頑健にて皇國の爲め將た又東洋永遠の平和に微力を軍務

確立のために微力を軍務

陣中を聽く

(384)

坂內　勝君

其後は絶えて御無音に打ち過ぎ誠に申譯も御座いません、惡しからず御容赦下さい。皆樣には御壯健にて銃後の護りも愈よ固く只管御精勵のことゝ遠察致して居ります、お蔭樣にて小兵益々元氣で御奉公致して居ますから御放念下さい。

最早大陸も小鳥の囀る聲に振ひ菜の花は眞盛りで御座います。聞も無く衣更えの節となる事でせう。先は皆々樣の御健康をお祈り致します、敬具

元氣で奉公

書送する書である

新興ダイヤペン付

ウエル萬年筆

金一圓五十錢以上

本品ハ商工省主催『代用品工業展覽會ニ於テ一萬數千點ノ出品中萬年筆トシテハ只一點鑑査ニ合格セル新興國策製品ナリ

平市才土小路

代理店　魁文堂

電話3113番

平市慶弔錄

△出生　鎌田町澤田寅次郎氏長男弘志君

▲死亡　本籍白銀町茨城縣華川村亡午治さん孫大內常雄君(二)　本籍古鍛治町好間村堂田阿部萬次郎さん(六七)

科外生徒募集

一、邦文タイプライター科

◎時代の尖端を行く昭和婦人の職業

入學は毎月　隨時

卒業期間　四ケ月(高女卒程度)　十ケ月(小高卒程度)

◎卒業者の就職紹介は各方面と連絡を有し斡旋致します

一、洋裁科

入學は毎月　隨時

卒業期間　本科　一ケ年　速成科　六ケ月

文部大臣認可　平陽女學校

(平市　電話四四五番)

重田眼科

平驛前通り　元貯蓄銀行跡

眼鏡檢定　醫師　重田景治

平市田町一番地

開院

歯科全般

口腔外科

歯列矯正

平郵便局ウラ通リ

南町四十五

鈴木歯科醫院

東京歯科醫學士　鈴木與一郎

外科一般

內臟外科

肛門病科

皮黴科　專門

泌尿生殖器科(婦人科性病科)

平市字鎌田町

白土醫院

(入院隨意)

電二七九

お醬油は……ヤマフル

醬油

味噌醬油

たひら正宗

鰹節　食料品

山崎合名會社

磯島縣小市

電話(營業部一〇番　店二七番)

明治生命磐城代理店　山崎與三郎

少しの不服ありとも顏に出さず平和な眼へ▲七赤　天祿天祿に勇ひ付き來る入學開店名弘め吉▲八白

思遠の實現に手を出すときは意外に失敗す▲九紫　吉運の日なれども我意を張る時は過ちあり

三月　丙申　赤口　十二月　十二　定　九　日　日　氏宿

極　土曜　新　四　月　三

▲一白　順調に進捗へども相談事

▲一白　人の上に立てば一ぱいの勞苦を身に纏ゆる日▲二黑　上下に眼り一致せし所によりて活動すべし▲三碧　殺伐の氣を押へ口をつゝしめば何事にも吉き日▲四綠　邁め勇氣充つれば矢玉の雨も恐るに足らず▲五黃　心定まり內整へば出來事は愛ふるに及ばず▲六白　實直に勵めば豫期以上の發展を得らるべし▲七赤　盲進には危險伴ふ運ひは遲くとも徐々が吉▲八白　條理正しく細事の爲に方針をまぐべからず▲九紫　長堤もありの一小穴よりつひゆることあり注意

五月　一日

▲一白　深入りするときは出道を失ふやうな注意日▲二黑　營業は迎々たりともはかどり行くあせるは敵の基▲三碧　正道に依り進まは何物も我を妨ぐる能ず▲四綠　よろこびも來の間に消へて爭ひと變じ易し注意▲五黃　是まで難み最たる事ども今日通達す▲六白

三　月　丙　赤口　十二　定　九　日　氏宿

極　土曜　新　四　月　申　十二　日　日

▲一白　順調に進捗へども相談事

▲一白　人の上に立てば一ぱいの勞苦を身に纏ゆる日▲二黑　上下に眼り一致せし所によりて活動すべし▲三碧　殺伐の氣を押へ口をつゝしめば何事にも吉き日▲四綠　邁め勇氣充つれば矢玉の雨も恐るに足らず▲五黃　心定まり內整へば出來事は愛ふるに及ばず▲六白　實直に勵めば豫期以上の發展を得らるべし▲七赤　盲進には危險伴ふ運ひは遲くとも徐々が吉▲八白　條理正しく細事の爲に方針をまぐべからず▲九紫　長堤もありの一小穴よりつひゆることあり注意

五月　一日

▲一白　深入りするときは出道を失ふやうな注意日▲二黑　營業は迎々たりともはかどり行くあせるは敵の基▲三碧　正道に依り進まは何物も我を妨ぐる能ず▲四綠　よろこびも來の間に消へて爭ひと變じ易し注意▲五黃　是まで難み最たる事ども今日通達す▲六白

九紫　一白　二黑　三碧　四綠　五黃　六白　七赤　八白